

出羽三山御開祖 蜂子皇子御尊像拝観

羽黒山開山堂 蜂子神社

かつて人々のあらゆる苦悩を救った
開祖蜂子皇子の御尊像が
平成の世に御姿をお見せします

御開扉

平成二十六年「甲午」
羽黒山午歳御縁年

東日本大震災から三年の月日が過ぎ、
復興は未だ途半ばという状況にあります。
被災者の皆さまが一日も早く、
安心して暮らせる日が訪れることを願うと共に、
一人でも多くの皆さまの心に
希望の光が灯されますようご祈念申し上げます。

4/29[火]～9/30[火]

- 受付時間/午前8時30分～午後5時
- お祓料/500円
- 記念品/小玉串(お守り)等



蜂子皇子御墓[羽黒山山頂]

明治以来、秘中の秘とされ
幻とも言われた御尊像です
三山の靈威を広く世に示され、
今日の出羽三山信仰の礎を築かれた
第32代崇峻天皇の御子
蜂子皇子を祀る蜂子神社を開扉し、
明治以降初めて一般の皆さまに
開祖の御尊像を公開します。

蜂子皇子の生涯

出羽三山開祖蜂子皇子は推古天皇の御代に出羽三山を開き、五穀の種子を出羽の国に伝え、人々に農耕を教え、産業を興し、治病の法を教え、人々のあらゆる苦悩を救い給うなど、幾多の功徳を残されました。民の全ての苦悩を除くという事から能除太子と称せられ、舒明天皇の13年10月20日御年91歳で薨去されました。

蜂子皇子の御姿は、御顔がみにくく、口は大きく耳の根元まで裂け、鼻は下にさがって一寸もたれ、顔の長さは一尺もある異様な御姿であったと伝えられています。これは人々の苦悩を一身に引き受けたからだとも言われています。

[お問合せ]

出羽三山神社 TEL.0235-62-2355 <http://www.dewasanzan.jp/>
〒997-0292 山形県鶴岡市羽黒町手向字手向7

羽黒町観光協会 TEL.0235-62-4727 <http://hagurokanko.jp/>
〒997-0211 山形県鶴岡市羽黒町手向字院主南72



蜂子皇子御尊像掛軸
[出羽三山歴史博物館蔵]

平成26年
[2014]

羽黒山
午歳御縁年
記念事業



国宝 羽黒山五重塔
ライトアップ

◆期間 6月14日[土]～9月13日[土]
◆時間 日没～午後9時30分

山形DCキャンペーンの年にあたり、羽黒山五重塔をライトアップします。闇の中に照らされ荘厳さを増した五重塔は、訪れる人々を幽玄の世界へと誘い清浄な気持ちにしてくれます。

羽黒山中興の祖
天宥別当墓参ツアー

◆期日 6月8日[日]～10日[火]
◆場所 東京都新島村



手向集落では墓参講を組織し、毎年天宥別当終焉の地である新島を訪れます。ご縁年にあたり、広く一般にも参加を呼びかけ新島墓参を行います。

御縁年特別御膳 [於羽黒山齋館]

◆期間 4月29日[火]～11月23日[日]
◆料金 2,500円(税込)
◆記念品 羽黒あられ三山句碑ポストカード

羽黒山の勝地とされる八景を料理に見立て「羽黒山八景御膳」としてご提供致します。



出羽民俗芸能
奉納祭
「神人交流」

◆期間 7月19日[土]～8月16日[土]
期間中 毎週土曜日

◆時間 午後12時30分～午後1時
◆場所 羽黒山頂 特設舞台

羽黒山の出羽(いでは)神社に祀られる出羽(いでは)神のたいなる発揚を願ひ、県内はもとより出羽三山講中より芸能をご奉納いただきます。



山伏と巡る
羽黒山八景の旅

◆期日 5月上旬～10月上旬
※期間中 団体のみ受付(不定期)

◆場所 手向集落黄金堂から
羽黒山頂手水舎前三山句碑まで

◆料金 必要経費+山伏ガイド料
羽黒山の勝地「羽黒山八景」を山伏の案内で巡ります。



蜂子神社御開扉
「蜂子皇子御尊像拝観」

◆期間 4月29日[火]～9月30日[火]
◆お祓料 500円
◆記念品 小玉串(お守り)等

三山の靈威を広く世に示され、今日の出羽三山信仰の礎を築かれた第32代崇峻天皇の御子蜂子皇子を祀る蜂子神社を開扉し、初めて一般の皆さまに開祖の御尊像を公開します。

ご縁年特別展示

「荘内に残る絵馬(神馬)展」

◆期間 4月下旬～5月下旬
◆場所 出羽三山歴史博物館
◆期間 6月上旬～7月下旬
◆場所 いでは文化記念館



「天宥別当新島遺品展」

◆期間 6月上旬～7月下旬
◆場所 出羽三山歴史博物館
◆期間 8月上旬～11月23日
◆場所 いでは文化記念館



※期間中、両館の共通券が発行されます。

博物館拝観割引券
抹茶割引券贈呈

ご祈禱された方には、割引券を贈呈します。

◆期間 6月14日[土]～9月13日[土]
◆割引料金 一人50円



御縁年特別グッズ頒布

縁年扇子、絵馬、神馬置物、羽黒山八景クリアファイル等を頒布します。



八朔祭(8月31日)では、真夜中、入ちが山伏たに蜂子神社に祈願し、社前で大柴燈護摩を行います。



開山堂及び開山廟の変遷

元和5年	1619	6月28日	宥俊別当建立(「羽黒三山別当執行職歴代」)
慶安元年	1648	3月6日	宥俊別当修復(「羽黒三山別当執行職歴代」)
文元4年	1739	6月20日	院代雲光院覺水建立(「羽黒山年代記」)
文化8年	1811	2月11日	本社炎上により類火。本尊は焼失をまぬがれる
文政6年	1823		覚諱別当開山堂の後ろに開山廟を建立し「照見大菩薩」と刻む(「神階並諡号願記」)
文政8年	1825	5月29日	開山堂再建(「覚諱日記」)
文政8年	1825	7月1日	覚諱別当再建を記念し大柴燈護摩を執行する(「柴燈護摩手続」)
明治7年	1874	2月7日	西川宮司開山堂を蜂子神社と改める
明治7年	1874	6月5日	西川宮司開山廟に刻まれた「照見大菩薩」を「ハチコノミコト」と改める(「神階並諡号願記」)
昭和56年	1981		基礎及び屋根改修
平成17年	2005	3月	鶴岡市有形文化財に指定

開山御尊像の由来
江戸の初めまで開祖の御尊像は五重塔に安置されていた。比叡山の湖海院という高僧が五重塔を参拝された折、御尊像について尋ねられ九拜された。開祖の事は宮中の記録に有り、独自の御殿が無いのはいかなものかと言われた。そこで、元和5年(1619)宥俊別当は羽黒山上に御堂を建立し、開祖の御尊像を安置された(羽州羽黒山中興覚書)。また、文政6年(1823)には、開山能除仙に対し、仁孝天皇より照見大菩薩の諡号が贈られた(神階並諡号願記)。こうして250年にわたり参拝者に拝観されてきた。明治3年(1870)「権現の名をもって呼ばれていたものはすべて神とすべし」という政府の命により出羽三山は神の山となる。当初開山堂は仏堂として残されていた。しかし明治7年初代西川須賀雄宮司は、開山の菩薩号を返上し開山堂を蜂子神社と改めた。開山の御尊像は僧形だったので、これより堂の奥に仕舞われることとなった。